

12月13日(金) 午後7時から京都府連盟事務所で組織拡大交流集会在連盟役員と6つの会から9人の参加で行われました。参加の会、明峯、右京、洛中、西山、やましな、田辺。

組織拡大委員会から6月に開催された全国連盟の地方連盟理事長・組織担当者会議の概要と京都府連盟の11月末の組織調査結果(954名)の報告があり、「すべての会で登山者・ハイカーのニーズに応えた登山教室・講習会を開催し労山の魅力を上げるとともに、安全登山教育の普及をはかろう」をスローガンに、①後退を回復し新たな峰を展望した運動へ、②公開行事(登山教室、教育講座、公開ハイク等)の計画実践、③青年会員の中での新たな運動と広がり(青年委員会の援助)の提起を受け、とりくみの交流が行われました。以下概要を報告します。

①公開ハイク等：各会とも年2、3回バスハイク等にとりくんでいるが参加者は1~3名と少なく、公開とは銘打ってやらずHPで「一般参加できる」と載せているが来る人はいない(明峯)や見直しが必要と考えている会もありましたが、行先(鈴鹿)により若い人がHPをみて5~6人参加(西山)したところもありました。

②登山教室：登山教室と読図講座を隔年で実施、登山教室は22名受講、うち15名入会。山行で「入会するとこういういいことがある」とマンツーマンで、山行での個別フォローが大切。読図講座24名参加、会員11(昨年登山教室受講の入会者)、一般13で1名入会、新聞募集なので70歳など高齢者中心(不安解消のための学習?入会にいたらない)(洛中)。

ここ3年、年2回春・秋に読図教室(座学2回、実技2回)やってきた。新聞広告で募集、3~5人の参加者、うち2人くらいが入会(西山)。

③募集方法：山でのチラシ配り(700枚)が若い人に有効、1回5、6人で登山口、山頂、山中で配布、年5~7回行う、渡すときに二言三言声をかけ気持ちを込めて渡すといい(洛中)。

3年ほど前チラシ配布で十数人加入したことがあった(明峯)。市内の各会もチラシ配布をはじめ競合状態(比叡山、愛宕山、大文字山、右京、伏見など)。

日頃のつながりでよびかけ入会してくるケースがいくつかある。大阪の組織担当者会議ではHPや公開ハイクでは人が集まらない、個人的なつながりしかないとの声もある。

HPを見て加入、10月に1人(「ハイキング」、「高齢者」でヒット)。HPのSNS、スマホの利用は課題(西山)。青年がHPを携帯で見られるようにしたが、今のところ反応なし(右京)。

④魅力的な例会、入会者のフォロー

若い人も2年目から運営にかかわってもらっている。2、3年目からCLも経験(洛中)。

例会は4か月ごとにメールで会員から行きたい山をだしてもらい運営委員会で決めている。CL、SLを行きたい人にやってもらうよう考えている。シリーズものもあり例会は豊富(明峯)。

昨年の交流会での山本講演(トレーニング量の目安、月間登下降距離各2,000m)をうけ、会員に日常の低山トレのニーズがあり、低山トレを日常的にとりくんでいる会がいくつかある。

毎回10人近くが参加、いつも例会に来ていない人も来ている(洛中)。教訓としてコースを固定せずにいろいろな山やコースで行うことが続ける秘訣(明峯)。

⑥高齢化による退会が増えている。介護問題も一因

会員の他に会友（年会費 3,000 円、機関誌配布）で退会後もつながりをもっている。山行が「超らく」「らくらく」「ウォーキング」「ビスターリ」「一般」「健脚・雪・岩・沢・テント」に分けられ、下の2つの山行は参加可能。クラブインクラブ（オカリナ、パッチワーク）もある（西山）。例会は一般、岩、沢に分れ、月1回会議をもって企画している。寺社めぐりなどハイキングもさかん、山に行けない人も交流企画（うたごえなど）に参加。高齢を理由にやめる人はいないが3～40台の人がやめた。新会員はサポート体制で1年ぐらい担当を決めている（やましな）。新会員は1年担当（運営委員）がつく、何もなくても月1回は必ず連絡することになっている（洛中）。

⑦会に組織部はある？　あるところ：公開ハイク、集中登山、クリーンハイクの3つが担当、公開ハイクをはずすことにした（西山）、3役がやっている（洛中）、ないところ：運営委員会でやっている（明峯）

（文責 平尾）

<再掲> 積雪期搬出訓練の実施

実施日：2020年1月26日(日) 降雪、雨天決行

長年、2月第一日曜日に実施していましたが、近畿ブロック雪崩講習会が2月第一日曜日に実施されることになり、2020年から1月最終日曜日に変更しました。

対象者：雪山ハイキングや雪山縦走に参加されている方

受付：イン谷口トイレ前広場8時30分 開始; 9:00 15:00反省会後解散

場所：正面谷周辺

内容：ビーコン、プローブ訓練、負傷者の梱包、引き上げ引き下ろし

持ち物：積雪期の日帰り個人装備 ビーコン、スコップ、プローブ、ヘルメ

ット、ハーネス、等必要な登攀用具（原則、アイゼンは使いません）

ビーコンやプローブ、スコップ、ハーネス、登攀装備を持っていなくても、参加可能です。

（ビーコン、プローブ訓練の時は見学だけでも勉強になります。登攀装備がなく

てもメットがあれば負傷者搬送のお手伝いはできます）

申込：労山部 平尾まで

〆 切：2020年1月9日（木）

2020年テーピング講習会のご案内

京都府勤労者山岳連盟

教育遭難対策委員会

「登山人口 1000 万人」とも言われる中で、山での事故が増えています。京都労山の各会でも毎年何らかの事故が起こっています。山で事故をおこしたら、救助要請の判断とともにコンパニオンレスキュー（仲間による救助）が求められます。その際大事なのがファーストエイド（応急・救急手当）です。出血、ねんざ・骨折に直面してきちんとした処置ができるかどうかで、事故者およびパーティの安全に大きな影響を及ぼします。これらの処置法を繰り返し学び、身につけておくことが重要です。登山者の高齢化がすすむ中で、山でのケガは「ねんざ」が増えているといえます。今回の講習会では、これに対処するテーピング法を学びます。患部を圧迫・固定し、悪化を最小限に抑える方法とともに、ケガの予防、再発防止のためのテーピング法も学びます。ぜひご参加ください。

記

- 日 時 2020年2月14日（金） 19：00～20：50
- 会 場 中京いきいき市民活動センター ☎ 075-802-1301
(京都市中京区西ノ京新建町 12-34)
※西大路三条を東に、二筋目を北に約100m歩いた西側
- 講 師 田原 裕（京都府勤労者山岳連盟会長）
- 内 容 ①「ねんざ」に対するテーピング法、
②ケガの予防・再発防止のテーピング法
- 参加費 無料（ただし、各自で以下の材料等を持参してください）
- 持ち物 テーピングテープ（非伸縮タイプ・38mm）、
キネシオロジーテープ（38mm）、
アンダーラップテープ（70mm）、
ハサミ、タオル、ゴミ袋 ※テープ類は医療品店で購入
- 定 員 先着30人（定員になりしだい締め切ります）
- 申 込 労山部 平尾まで

<再掲> 登山時報「地図読み迷人」監修者 村越真先生による

「読図勉強会」開催のお知らせ

今回、静岡大学教育学部教授の村越真先生をお招きして読図勉強会を開催することとなりました。村越先生は登山時報の「地図読み迷人」監修者であり、多くの著書を出され、山岳読図の分野で日本有数の先生です。

読図に関しては、日頃から各会で継続的に勉強会を実施されていることと思いますが、今回の講演を通じて、改めて会員の皆様方の読図力向上に役立てて頂きたいと思い企画いたしました。是非ふるってご参加ください。

「地図、コンパスは何のため？」 目的意識で道具を最大限に生かす

<村越先生からのメッセージ：疑うことから始めよう>

疑問1：登山において、読図は本当に必要なのか？

疑問2：なぜ現在地を確認しなければならないのか？

疑問3：コンパスは本当に必要か？

【開催日時】 2020年2月29日（土）13:30～16:30（開場13時）

【会場】 京都教育文化センター 301号室

（左京区聖護院川原町4-13）

【対象者】 京都勤労者山岳連盟会員

【主催者】 京都勤労者山岳連盟 教育遭対委員会

【参加費】 300円

【申込】 労山担当 平尾まで 1月24日〆切



すでに十数名で申込まれている会もあるようです。会場の定員の関係もあり早めに申込んでください。